

おばあさんが教えてくれた

本当の優しさ

真庭市立北房小学校

六年生 林 瑞希

「うわあ、めっちゃ混んどる。」

一月一日、私はイオンに買い物に行った。元日だから人が多く、お店の中はとても混んでいた。買うものを選んでいたら、少しトイレに行きたくなって、おばあちゃんに、

「ちよつと、トイレ行ってくる。」

と言って、トイレに行った。

「トイレ混んどるかなあ。混んでないといいな。」

と思ったけど、トイレ待ちの列は予想以上に長く、男性トイレの前もふさぐくらいだった。早く買い物に行きたかったのと、あまりにも列が長すぎて、私は、

「やっぱり元日だから混んでるな。早く行きたいのに。」

と心のなかで少しいらいらしていた。

でも、順番が回ってくるのは思っていたよりも早く、十分くらい待つと前から五番目くらいになっていた。あと少しだと思ったとき、小さな女の子が泣きながらトイレに入ってきた。

「うわーん。お母さんどこ。いないよう。」

と言って、トイレの中をうろうろしていた。私はどうしたらいいのかよく分からなくて、

「どうしよう。声をかけたほうがいいのかな。でもあと少しで順番だしなあ。」

と思って、動けないでいた。他の並んでいる人もそんな感じで、みんながどうしようとまどっている、私の一つ前のおばあさんが、

「どうしたの？お母さんがいないの？」

と、女の子にやさしく声をかけていた。おばあさんはあと少しで順番だったのに、わざわざ列をぬけて、女の子と一緒にトイレの外に出て行った。私はそのおばあさんの行動におどろいた。そのトイレにいた人はみんなだれも動かず、ただおろおろしながら見ているだけだったのに、おばあさんは並んでいた列をぬけてまで、女の子を助けようとしていたからだ。私はそのおばあさんの優しさに、拍手を送りたくなかった。

私は、実際にハプニングが起きた時、心のなかでは分かっている行動に移せないことが多い。「やったほうがいいこと」は分かっている

のに、「実際に行動に移す」ができない。このハプニングが起きたときにも、「私にはあまり関係ないかもしれない。」「どうせ私がやるよりも、他の人がやったほうがいいかもしれない。」と、全部人任せにして、自分は何もできなかった。きっと、他の人も知らないうちに、心のなかで自分優先になってしまっていると思う。でも、「だれかがやってくれる」ではなくて、「自分が動く」という考えに変えないといけないなど思った。

私は、この経験を通して、本当の優しさとは、だれも見えていないところでも、だれにもほめられないところでも、自分よりも相手のことを考えて行動することだと思った。これからは、自分のことばかりを考えるのではなくて、周りを見て相手がやってもらっとうれしいことをしたい。そして、それを考えるだけでなく、行動に移していきたい。